

下水道工事後の本舗装はいつ?

「下水道工事で、下水本管の埋設や各家庭からの取付管工事を行ったあと、仮舗装のまま放置されている。いつになったら本舗装をするのだろうか?道路がでこぼこでつまずきそうだ」という声を聞き、鈴鹿市上下水道局にお聞きしました。

「下水道管を新規に埋設した場合、管を埋め土砂を埋め戻した後に、簡易的な舗装をかけます。土砂を埋め戻すときには、もちろん転圧をしますが、どうしても時間とともに土砂が締まり沈みます。1年経過すれば埋め戻した土砂も落ち着くので、本舗

装を行います」とのことでした。

もちろん、段差がひどい、隙間が大きいなど、つまづいたり自転車のタイヤがとられるなど危険な箇所があれば、自治会長経由で要望書を出せば、危険箇所はすぐに補修してもらえるので、ご連絡ください。

写真は、2月に本舗装予定の東磯山4丁目道路。



吉永小百合×坂本龍一 チャリティーコンサート

昨年末、大阪フェスティバルホールで、吉永小百合さんと坂本龍一さんらのチャリティーコンサート「平和のために〜詩と音楽と花と」があり聴いてきました。

坂本龍一さんのピアノ、村治佳織さんのギター演奏と、吉永小百合さんの原爆や福島原発事故をめぐる詩の朗読に、2500人の観客が聴き入り、核なき平和への願いを共有したコンサートでした。お二人のメッセージが心に響きます。

■吉永小百合:平和は願うだけでなく、みんなで作っていくもの。今回のチャリティーコンサートは、そんな思いが募り、多くの

方達にサポートしていただいて、実現しました。ご来場の皆様に、心からの御礼を申し上げます。皆様のお心に残るようなステージを作り、と一緒に未来のことを考えたい、歩いて行きたいと、祈望しております。

■坂本龍一:吉永さんは勇気のある方だ。その存在は、素晴らしい女優であることを越えて、なにか神々しい感じをぼくたちに与える。そんな方が、もう30年、原爆詩の朗読会を続けている。

1945年生まれという運命と責任感がそうさせるのだろうか。ぼくは、非力ながらできるだけのサポートをしたいと思っている。平和は黙っていてもはやってこない。一人一人の小さな努力の積み重ねが、やがて世界をも動かすものだと思いたい。

■ブログ記事を中心に編集しています。皆様のご意見・感想をお寄せ下さい。

■日々の活動は、ホームページ、ブログ、facebookをご覧ください。

「はしづめ圭一」で検索して下さい。



発行: 鈴鹿市議会議員 橋詰 圭一【日本共産党】

No.7 2017年2月号

〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2874-1

電話・FAX 059-386-8561

携帯 090 6577 3617

ホームページ [はしづめ圭一] 検索



介護保険 これまで通り認定 を行い、新サービスも

12月議会では、「介護保険『新総合事業』について」質問しました。

4月から介護保険制度が変わり、介護度の低い方へのサービス低下が心配されます。

鈴鹿市では、「現行と同一の基準による訪問型サービス、通所型サービスを実施する」「介護保険認定希望者には、これまで通り要支援・要介護認定を行う」ことが確認されました。

また、介護認定された方も、されない方も、「新総合事業」のなかの介護予防・生活支援サービスが利用できるようになります。

多様なサービスといわれていますが、どのようなサービスが提供されるか、今後の動向に注目しましょう。また、どのような支援サービスが求められるか、高齢者の声を届けていきましょう。

学校給食を考える

昨年11月2日に「野菜が高いので、給食を2日間やめます!」というニュースが全国に報道され、はずかしい思いをし、また多くの市民の皆さんから「市が補助すべき」という声をいただきました。

【鈴鹿市の実情】

- ・市立小学校30校において、自校調理場方式19校、共同調理場方式11校。
- ・お米は鈴鹿市産のコシヒカリを使用し、おかずは、出来る限り国産、地元食材を使って、手作りを心がけている。
- ・小学校の給食費は月額4,100円、給食予定回数187回。
- ・献立は、統一献立で実施しており2~5ヶ月前に決める。
- ・食材は共同購入物資もあるが、肉・野菜

などは学校ごとに業者と契約。給食会計は各学校でやりくりしている。

【今後どうあるべきか?】

給食の食材費は保護者負担がこれまでの原則だったのですが、最近は、子どもの貧困が社会問題になる中で、また、子育て支援をかかげる自治体では、給食費無料や給食費の補助制度をつくる自治体も増えてきています。

すぐに無料化とは言いませんが、義務教育の一環なので、今後一定の財政負担のルールを作るべきだと考えます。

少子高齢化が社会問題になり、高齢者問題が課題であるかのように言われていますが、少子高齢化問題を解決する一番のカギは、若者が結婚しやすい環境、子育てしやすい環境を作ることではないでしょうか。そういう観点からも、学校給食を考えることが大事だと思います。

鈴鹿の元気な製造業を見学して

昨年11月、12月に、鈴鹿市内の製造業を見学する機会がありました。私は42年間、ホンダのエンジン部品機械加工現場で働いてきたこともあり、興味深い内容でした。

Honda鈴鹿工場へは市議会議員全員で11月15日に行きました。懐かしい工場の臭いです。説明を受けたあとで溶接ラインと車体組み立てラインを見学。危険な作業、重量物や難姿勢作業などにロボットが多数導入され、その動きに見学者は感嘆の声をあげていました。

説明にもなく、あまり知られていないことですが、Hondaの労働条件はすすんでいます。①ずっと有給休暇100%取得。②製造ラインは基本的に残業なしの連続2交代制。深夜勤務は一部の3交代職場のみ。・・・など、他の自動車メーカーも「せめてホンダ並みになってほしい」と、ずっと思っています。

また、Honda鈴鹿工場は、車体だけでなくエンジン部品のアルミ鋳造、機械加工、ミッションギアやHV用駆動モーターなども製造している、日本では他にない工場であることも大きな特徴です。

12月12日には、産業建設委員会で航空機産業関連事業を行っている市内企業3

社を見学しました。

①(株)トピア（一ノ宮町）：試作のリーディングカンパニーとして、自動車産業だけでなく、その高い技術力から近年では航空宇宙や鉄道車両、家電、医療業界などにも進出しています。

②南条製作所（広瀬町）：鋼板・型鋼各種曲げ加工のほか、テーブル長19mの5軸加工機による精密加工などで航空機産業からも受注が増えています。

③三重樹脂（稲生町）：オートバイのカウルに付いている風防の加工から事業を展開、以降、様々な製品の加工ノウハウを蓄積。日本で初めて米国製ウォータージェットを導入し、国内中小企業で唯一、炭素繊維が使用されている次世代機ボーイング787の主翼フラップ部品をウォータージェットで加工することができる切削加工メーカーへ。

細かいことは書けませんが、どの企業も、創業者・社長の考え方と、磨き鍛えられた技術力、時々時代を見据えた事業展開への決断力が素晴らしいと思いました。

また、同行頂いた鈴鹿市役所産業政策課長さんと担当職員さんらの、市内数百社の中小製造企業を系統的に訪問し、行政とのパイプを作られている日頃のご苦労がよく感じられました。ありがとうございました。

つが心に残りました。

「ものづくりの町として発展してきた鈴鹿の先人の努力をベースに・・・地域活性化の力になれるよう前進したい。事業所見学を通じて子どもたちに鈴鹿の企業の魅力をアピールし、若い世代の定住促進と生産人口拡大につなげたい」・・・そのとおりですね。学び行動する年にしたいと思います。

商議所の賀詞交歓会

鈴鹿商工会議所の賀詞交歓会が1月6日鈴鹿サーキットで行われ出席しました。創立70周年記念でもあり、240人の出席者で賑わいましたが、なかでも昨年11月に新会頭に就任された田中彩子氏のあいさ

匠の里ウオークラリー

匠の里ウオークラリーを歩いてきました。朝10時に近鉄白子駅東口でラリーマップをもらって出発。マップを片手に、白子から寺家の10カ所をまわり、スタンプを押してもらいます。

写真の左上がスタートで、時計回りに、伊勢型紙資料館→今坂さん家→小林さん家→語らい館よこた→伊達忠兵衛家→伊勢型紙おおすぎ→鈴鹿墨進誠堂→子安観音寺→中村さん家→鈴鹿市伝統産業会館の10カ所を約3時間かかって歩き、完歩賞の伊勢型紙の手拭いをいただきました。

ちょっと汗ばむほどのいいお天気で、始

めて行ったところも多くて勉強になり、心身ともリフレッシュしました。

主催は伊勢形紙協同組合で、今回は第9回とのこと。「〇〇さん家」というのは型紙職人さんの自宅で、作業場など公開して実演していました。白子は歴史ある町だということを感じました。(11/12)



鈴鹿市消防出初式と若松分団懇親会

1月9日、鈴鹿サーキット国際レーシングコースで、鈴鹿市消防出初式があり行ってきました。暖かい好天に恵まれ多くの市民が参加していました。訓練やアトラクションとともに表彰式があり、若松消防団からは4名の方が表彰されました。日頃の活動に、ここから敬意を表したいと思います。

またその日の夜に、若松分団の懇親会があり参加しました。消防分団の懇親会には初参加で団員の皆さんと顔を合わせるのも初めてなので、どんな顔ぶれだろうとやや心配していましたが、取り越し苦労でした。

団長さん10年位前に畳の貼り替えをしていただきました。私がお顔をすぐに思い出せませんでした。声をかけていただいてすぐわかりました。副団長さんは子供が少年サッカー団で一緒でした。30数年ぶりの出会いです。40年以上消防団活動を続けているとのこと、他の

団員さんも20年30年と続けており、消防団活動にける意気込みに頭が下がります。

消防団の一番の悩みは若い人が入らないこと。でも若松では昨年、団員募集のチラシを見て40代の方が2人入団されたとのこと、うれしいですね。じっくりお話を聞きました。他にも地元の要求をいっぱい聞きました。若松の清酒「作」もいっぱいいただき、元気をもらいました。ありがとうございます。

